

区民のページ

各区からのお知らせや魅力・取り組みなどを紹介します。

※人口は住民基本台帳による数(令和2年10月31日現在)。



北 区

人口：296,005人 面積：450.70km²

北区役所

〒700-8544 北区大供一丁目1-1(市役所本庁舎および分庁舎内)

日本遺産構成文化財「牟佐大塚古墳」を訪ねて

牟佐大塚古墳は、吉備津彦命の子孫である上道氏の墓と考えられ、箭田大塚古墳・こうもり塚古墳と並んで、県三大巨石墳の1つに数えられます。復元すると墳丘が直径30m、高さ8.5mと大型の円墳であると考えられ、墳丘の中心部分に全長18m、最大幅2.8m、最大高3.2mの横穴式石室が南向きに設けられています。



室の規模の巨大さから、巨石墳と呼ばれています。

出土物は不明ですが、6世紀末の築造と推定され、石室の奥には遺骸を納める家形石棺が安置されており、この石棺は、備中南西部(井原市)産出の浪形石で作られています。

古墳は、古代山陽道が旭川を渡る地点の近く、岡山平野・県東部・美作を結ぶ要衝の地、北区牟佐にあり、古墳域は1930(昭和5)年に国の史跡に指定されています。

また、平成30年に認定された日本遺産の構成文化財にもなっており、

日本遺産の案内標柱にあるQRコードを読み取ると、古墳内写真や英文の説明が出てきます。



●史跡内容の問い合わせ

教育・文化財課 ☎086-803-1886

●日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」の問い合わせ

プロモーション・MICE推進課 ☎086-803-1333



中 区

人口：147,871人 面積：51.24km²

中区役所

〒703-8544 中区浜三丁目7-15

富山地域センターは開設10周年を迎えました

富山地域センターは、平成22年11月29日に開設され、今年で開設10周年を迎えました。

市が政令市に移行した後、4区の中で唯一中区には地域センターが存在していなかったため、当センターが中区初となりました。

開設当初は、旧天満屋ハピータウン円山店の駐車場の一角を借り、仮設事務所で業務を開始しました。その後、天満屋ハピーズ円山店の建て替えに伴い、店舗内の一角に移転し、現在に至ります。

平成25年5月1日からは、開庁時



▲富山地域センター

間を平日の9時から19時(土日、祝日、振替休日及び年末年始を除く)に変更し、17時15分から19時までの平日時間外開庁を開始しました。

時間外開庁での取り扱い業務は住民票の写しや戸籍謄本、印鑑証明

などの一部の証明書発行業務に限られます。詳細は市のホームページをご覧ください。富山地域センターまでお問い合わせください。

職員一同、市民の皆さんに信頼され、親しまれる窓口になるよう、サービスの向上に努めていきますので、今後ともよろしくお祈いします。



●問い合わせ

富山地域センター ☎086-277-7211

各区役所への電話は、市役所代表番号からおつなぎします。

市役所代表

☎086-803-1000



東区

人口: 94,701人 面積: 160.53km²

東区役所

〒704-8555 東区西大寺南一丁目2-4

～旅とロマンの詩人～ 有本芳水 (1886～1976)

有本芳水は明治19年姫路市に生まれ、その後岡山市へ移住した、現在の東区上道北方にゆかりのある偉大な詩人です。

早稲田大学時代には、若山牧水や北原白秋らと作品を発表し文壇からの注目を集めるようになりました。大正3年に発表された「芳水詩集」は、装丁と挿絵を竹久夢二が担当し、当時としては異例のベストセラーとして、全国の文学少年に深い感動を与えました。

岡山大学や岡山商科大学などに勤め、岡山の文学に多大な影響を与え

ました。昭和20年に夫人の生家である東区上道北方の地に疎開した有本芳水は、晩年まで永住することとなりました。

地元上道北方での有本芳水は、おごらず高ぶらずひょうひょうとしており、皆にととも愛されたと伝えら



▲芳水詩集



▲詩碑



れています。

上道地区内には詩碑をはじめ有本芳水のさまざまな足跡が残っています。有本芳水の詩に思いをはせながら、偉大な詩人が愛した上道の地を散策してみたいはいかがでしょうか。

●問い合わせ

上道地域センター

☎086-297-4211



南区

人口: 169,320人 面積: 127.48km²

南区役所

〒702-8544 南区浦安南町495-5

ごみについて学ぶことができます ～当新田環境センター施設見学～

当新田環境センターでは、ごみについてより身近に感じてもらうため、小学校の社会科学習を積極的に受け入れています。

焼却場では、焼却した後の灰はセメント材料として、残った鉄は鉄くずとして売り、熱は隣接する温水プールの水温を上げるために使い、蒸気は電気を作るために使います。それでも残ったものは山上処分場に埋められますが、大部分が有効に再利用されています。

子どもたちが一番興味津津なのは、巨大なクレーンがごみを混ぜている

ところ。「大きなクレーンゲームみたい。」と歓声が上がっていました。

質問の時間には、「僕たちが今すぐできることはありますか？」という質問があり、「おうちのご飯や給食を残さず食べてくれると生ごみの減量化になります。」と答えると、



▲たくさんの児童が質問しています

子どもたちも納得の表情です。

ごみは私たちの生活と切り離すことができないものですが、日頃から深く考える機会は少ないのではないのでしょうか？当施設見学が、家族一緒にごみについて考えるきっかけになれば嬉しく思います。



●見学についての問い合わせ

当新田環境センター

☎086-246-5145